

冒険心が飛翔する“100人の戯空間”

ウイング フィールド

〒542-0083 大阪市中央区東心斎橋2-1-27 周防町ウイングス6F

TEL(06)6211-8427 FAX(06)6211-6312

ウイングフィールド公式サイト URL <http://www.wing-f.co.jp>

第9回むりやり堺筋線演劇祭参加

作・演出／横川良明

WINGCUP

「私、自分が20歳になるなんて絶対嘘だと思っていた。」

9/2(土) 2:00
6:00
3(日) 11:00
2:00

出演／少年眼鏡

料金／一般 2,000 円

大学生、短大生、専門学生 1,000 円 (要証明証)

高校生 500 円 (要学生証)

(全て前売・当日共)

第9回むりやり堺筋線演劇祭参加

作・演出／Ambivalence

WINGCUP

「同じ窓の者たち」

23(土) 2:00
6:00
24(日) 12:00
4:00

出演／演劇企画 無有場

料金／一般前売 1,500 円 一般当日 2,000 円

高校生以下 1,000 円 (要学生証 前売・当日共)

第9回むりやり堺筋線演劇祭参加 ウイングフィールド提携公演

作・演出／橋本匡市

旅劇

「駱駝の骨壺」

29(金) 7:30
30(土) 3:00
7:00
10/1(日) 1:00
5:00

出演／万博設計

料金／一般前売 2,800 円 一般当日 3,000 円

U-25 前売 2,500 円 U-25 当日 2,800 円 (要証明)

一般ペア 5,000 円 (予約のみ)

U-25 ペア 4,000 円 (予約のみ・要証明)

高校生 500 円 (前売・当日共 要学生証)

霧の向こう、狼煙のような何か

山本 篤史

2017年7月1日以降、公演情報を積極的に追うことを辞めたら、自分と演劇との距離が一気に遠ざかった。

ただ、それはとても自然で、ああ、これは他の演劇関係者とはほぼ同じ視点かもしれない、と気付くことが出来たので、むしろ幸運だと感じている。

同年の6月30日まで、自発的に個人で始めた公演情報サイトの更新と、ツイッターによる情報配信のため、関西の劇場や劇団のウェブサイトやブログをせっせと巡回していた。

誰に言われるでもなく、勝手に面白がって約7年も続けていたので、巡回も更新も配信も習慣化していたのだが、いざ、その役割を他の方に譲り、持ち場を離れてみて、ようやく他の演劇関係者が眺めていた景色を知った。

演劇が遠くに薄ぼんやりと見える。あまりにも遠い。その距離感、その温度差に愕然とした。

自分は今まで何をしてきたのだろう。何が出来たのだろう。周りにどのような働きかけをすればよかったのだろう。

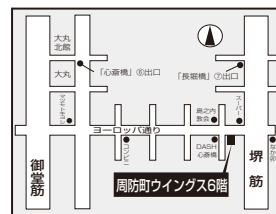
自分の背中を自分で見たような気分だった。

個人で公演情報をまとめ出したのは、演劇を含めたエンターテインメントを網羅した情報誌が書店やコンビニから消えたことに危機感を覚え、誰も跡を継がないのなら自分がやってみよう、と思ったのがきっかけだった。

自分が観に行きたいけれど、どうしても観に行けないから、誰か他の方に観てほしい。

同じ週にどのような作品が上演しているのか、関西の演劇関係者に横の繋がりを把握させたい。

関西の公演を寄せ集めると、これだけのボリュームになると他地域にアピールしたい。



そのような思いから、自分なりに試行錯誤して、手のひらサイズのフリーペーパーを作ってみたり、ミクシイで公演情報のコミュニティを作った。

フリーペーパーは反響を聞く機会がなく終了し、ミクシイは公演情報の入れ替えをしようと記事を削除したら、仕様でコミュニティごと消去された。

2010年5月13日から、ツイッターをカードメディアと捉え、カードを交換するように公演情報を配信することを始めた。

その当時はツイッターを利用している演劇関係者が少なく、内輪のコミュニティで細々と続けていたが、徐々に利用者が増え、それに伴い公演情報の掲載する範囲を近畿圏全体から三重県、鳥取県と広げ、関西の座組が行う地方公演や海外公演も取り上げた。

他の仕事の合間を縫って、劇場や劇団に情報提供を呼びかけ、毎日の公演情報を一覧表にした。その週の公演情報の一覧も作った。

おかげさまで、お客さん、役者、スタッフ、劇場関係者から好評価をいただいたが、今年の5月13日に、体力的にも精神的にも個人で続けることの限界を感じ、更新終了の旨を知らせた。

今、個人での情報更新を終え、冷静に辺りを見回してみたが、意識的に情報収集しようと思わなければ、演劇の情報は入って来ない。

演劇の情報が視野に入るときは、お金に余裕があり、時間に余裕があるときのみで、食うや食わずの生活に演劇が入る余地はない。

実はここにヒントがあるのではないかと考えている。

今観る余裕のある方はもちろん、今観るつもりのない方にも演劇情報を届けることが出来たら、未来のお客さんになる可能性がある。

その相応しい方法は何か、今も考え続けている。

(Daily Fringe Guide Osaka 初代編集人)

次代を担う表現活動を、微力ながら支援します。

す おう まち
周防町ウイングス